

# 令和4年度第1回大船渡市男女共同参画審議会 議事録

## 1 開催の日時及び場所

- (1) 日時 令和4年5月27日(金) 午後1時30分から午後2時45分まで
- (2) 場所 カメリアホール 多目的ホール

## 2 出席者

- (1) 委員 17人中、14人出席  
会 長 白木澤京子  
副会長 及川由里子  
委 員 菅原圭一、森田裕子、瀧澤ひろ子、石橋順子、前野浩哉、佐藤幾子、  
船砥孝子、千葉和子、新沼聖、石橋厚子、古澤弥代子、沼田京子
- (2) 市職員4人  
男女共同参画室長 新沼徹、次長 新沼晶彦、主幹 新沼優、係長 鈴木恭子

## 3 議事の経過

- (1) 開会（協議を除き、男女共同参画室次長が進行）
- (2) 会長あいさつ
- (3) 室長あいさつ
- (4) 協議（白木澤会長の進行、事務局の説明）  
「第5次大船渡市男女共同参画行動計画の策定について」要点を説明し、質疑応答を行った。
- (5) その他  
特になし
- (6) 閉会

## 4 会長あいさつの内容

今年度は、令和5年度から新たに始まる、第5次大船渡市男女共同参画行動計画の策定に向けた審議を行う重要な1年となります。委員の皆様には引き続き、お力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

さて、本日の審議会は、現行の第4次行動計画の目標指標に係る現時点の実績と、男女共同参画社会に関するアンケート調査の結果につきまして、協議を進めてまいります。

市の男女共同参画についての現状を把握し、より実践的な計画となるよう工夫する点や、アンケートでいただいた意見を反映する方法などを確認できればと思います。

大船渡市男女共同参画推進条例第5条には、市民の責務として、「市民は、基本理念の通り、家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野において男女共同参画の推進に努めるとともに、市が行う男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。」とあります。たくさんの市民が、忙しい中アンケートに向き合った時間は、一人ひとりが生活の中にある男女共同参画について、自分ごととして考える時間だったのではないのでしょうか。そしてそれが、新しい計画を策定するために市民と市とで行った、最初の協働作業だったと思っています。

委員の皆様には、それぞれのお立場から、さまざまな視点で、活発にご発言いただきますようお願いいたします。

## 5 室長あいさつの内容

人口が減少し、少子高齢化も進行する中で、持続可能な社会を築くためには、すべての人々が、性別に関わらずに互いに尊重し合い、個性と能力を存分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現が、大変重要であります。

こうした中、3月に開催した前回の審議会におきましては、令和5年度からの5年間の計画期間とする当市の第5次男女共同参画行動計画に関して、計画策定の主旨や計画の方向性、策定体制、スケジュールなどについてご審議いただきました。

委員の皆様のご意見を踏まえ、計画策定作業の第1弾といたしまして、4月から5月にかけて、「男女共同参画社会に関する市民アンケート調査」を実施したところ、回答者数が641人と、平成29年度に行った前回調査の2倍近い市民の皆様からご回答をいただきました。

本日は、市民アンケート調査のうち、全数集計の速報値を中心とした説明となりますが、皆様の率直なご感想やご意見を伺った上で、今後における、年代別などの詳細な分析を行う際の切り口・視点として、適宜、反映してまいりたいと考えております。

結びに、委員の皆様には、多様な人々が、分け隔てなく活躍できる社会の実現を念頭に、忌憚のないご発言をいただくとともに、次期行動計画の策定に対する一層のお力添えを切にお願い申し上げまして、挨拶といたします。

## 6 協議の内容

第5次大船渡市男女共同参画行動計画の策定について

### ・資料1—第4次大船渡市男女共同参画行動計画目標指標に係る実績（速報）について

#### 【菅原圭一委員：質疑】

基本目標3のNo.2『家族で農林漁業、商工自営業に従事している方の経営方針、作業内容、収益の配分など、事業経営について「家族で話し合って決めている」と答えた市民の割合』において、令和3年度の実績値が、ほかの指標と比較すると大きく向上し、計画目標値を達成している状況である。その理由について、どのような取組による影響なのか。

#### 【男女共同参画室：回答】

今回のアンケートで、若い年代・働き世代の方に多く回答いただいたことが少なからず影響し、より実態に近付いた結果になったと思われる。今後、詳細な分析・考察を進める。

#### 【菅原圭一委員：意見】

若い世代が、家族で話し合って事業を進めているということは、とてもよい傾向だと思う。今後示される分析結果に期待する。

#### 【石橋厚子委員：質疑】

基本目標3のNo.5『「仕事と子育てが両立できる環境にある」と答えた市民の割合』において、令和3年度の実績値が、計画策定時と変わっていないことが残念である。法律や制度の整備が進み、時間給で看護休暇が取得できるようになるなど、改善してきていると実感している。また、市でも子育てに係る取組に注力しており、社会福祉協議会へその取組の一端を委託し、積極的に子育て支援事業を行うことで、指標が改善されてい

るものと思っていた。しかし、市民目線では、まだまだ支援不足であることを痛感したので、職場において情報共有を図り、若い世代が、少しでも仕事と子育ての両立ができるよう、環境を整えていきたい。

**【男女共同参画室：回答】**

この4年間で変動がないことについて、昨今の新型コロナウイルス感染症などの社会的な情勢による影響は不明だが、現状でそのように感じている市民がいることが事実として表れているため、今後も関連部署と連携を図りながら取り組んでいく。

**【白木澤京子会長：質疑】**

アンケート結果で、家族構成が2世代と回答した市民が半数いる。2世代の内訳が、「年配の親とその子」なのか、「若い世代の親とその子」なのかは区別されていないが、2世代の家庭が50%ほどあることも影響・原因の一端なのだろうか。

**【男女共同参画室：回答】**

他の調査において、3世代家庭の場合に祖父母が子育てに関わることで仕事と両立できるという意見もあり、世帯構成の変化が影響している可能性もあると考える。アンケート調査では、子の年代も調査しているため、子育て世代を抽出し、分析することも可能であるため、今後、様々な方向から解析を進めたい。

**・資料2～5－男女共同参画社会に関するアンケート調査結果（速報）について**

**【瀧澤ひろ子委員：意見】**

資料2の「36 男女共同参画に関する意見・要望（自由記載）」（以下、「自由記載欄」）について、様々な意見が寄せられており、すごく勉強になった。この意見をひとつでも多く市民へ伝えられるよう、また、計画にどのように反映されたか、分かりやすく説明してほしい。

**【男女共同参画室：回答】**

非常に多くの方から意見をいただいた。今後は、どのような年代・性別の方の意見であるかを踏まえつつ、計画策定に生かしていきたい。

**【白木澤京子会長：質疑】**

アンケート結果について、回答いただいた方や市民向けに、どのように公表する予定であるか。

**【男女共同参画室：回答】**

結果概要については、第5次計画に補足資料として掲載することを検討している。また、詳細分析の結果については、分量の多い資料となる見込みであるため、インターネットを活用した市ホームページでの公表を検討している。

**【白木澤京子会長：意見】**

資料2の自由記載欄に書かれた意見が非常に重要であり、男女共同参画は、個人それぞれができることを継続して行うことが大切であると感じている。

現在、市民の目に触れる男女共同参画に関する情報は、市広報紙に年2回掲載される「いきいき通信」と、市立図書館などで開催する図書展が主だと思うが、例えば、いただいた自由意見の疑問などに回答するようなコーナーを、市広報紙などに設けてはどうか。

男女共同参画に関する質疑応答のコーナーを設けることで、アンケートに回答した市民や他の市民の目に触れ、市民と市とが協力して男女共同参画について考えていること

が伝わると思う。

**【男女共同参画室：回答】**

いただいた意見を踏まえて、前向きに検討する。

**【森田裕子委員：意見・質疑】**

本会議の資料や、リアスホールで5月15日に開催された関連講座を聴講した中で感じたことは、社会構造の中で、会社に限らず、生活に密接した地域や家族内においても、慣習やしきたりなどでの性差意識が根強いということだった。今までも様々な活動を行ってきたが、男女共同参画を推進するために最も効果的な取組とは何なのか、また、何から取り組めばよいのか分からなくなった。

様々な団体に「女性部」があるが、公民館でも役員はほぼ男性で、女性は、「女性部」という組織にならないと役職に就かないという社会構造になってしまっている。本審議会においても、委員の所属機関名に「〇〇女性部」と表記されており、女性は、「女性部」という枠を設けないと、このような方針を協議する場の構成員とならないのか、「女性部」という枠を設けなくても女性が参画する社会とするには、どのような取組を行えばよいのだろうかと考える。

**【男女共同参画室：回答】**

資料2の自由記載欄では、意見・要望として様々な意見をいただいた。「女性部」の活動が大変であるという意見のほか、一方では、地域公民館役員に積極的に女性が参画して活発に活動しているという意見もあった。どちらの意見も踏まえつつ、また、どの切り口から推進を図るべきかについても、家庭や企業のみを対象とすることなく、様々な選択肢を想定する中で、皆様の意見を伺いながら、活動できる人が活動しやすい仕組みづくりを、計画に反映させていきたい。

**【白木澤京子会長：意見】**

個人が、男女共同参画を推進する活動を行うとなると、自分でできることは何かを考える。その考えることが、自分の中での男女共同参画が一步進む機会になると思う。各自が、無理のない範囲で続けることが大事だと思う。また、男女共同参画とは、人と人との関りの中での問題であり、個人が、生まれてから亡くなるまで関わる問題でもあると感じている。個人一人ひとりが、時間経過とともに立場が変わり、周囲の人も変わっていくため、ずっと考え続けていくことも大事だと思う。

**【前野浩哉委員：意見】**

資料2の自由記載欄を読んで感じたことは、男女共同参画に係る認知度がまだまだ低いということだった。意見の中には、市にとって参考となる意見や要望が多く、今後、アンケートの精査や計画策定に向けて、検討していただきたい。

**【男女共同参画室：回答】**

各項目で回答いただいた内容だけではなく、自由記載欄では、様々な分野に係る具体的な提言や提案をいただいた。この中で、生かせる意見を十分に生かしつつ、どのような分野に関心が集まっているのかなどの分析も踏まえながら、計画に反映させていきたい。

**【及川由里子委員：意見】**

今回のアンケート結果は、貴重であると感じている。経験上、世代別に概念や視点な

どが違っていると感じており、今後、分析作業を進めていただきたい。自分も働く女性の一人として、仕事と子育てが両立できる環境を最優先としている。子育て支援の在り方は多種多様であるが、女性が希望する働き方の選択肢がないうちは、両立できると判断されないと思う。仕事の内容や働き方、勤務時間、フリーランスやテレワークの推進、自宅でできる仕事など、時代に合わせた働き方の推進なども視野に入れる必要があると思う。

**【男女共同参画室：回答】**

アンケート項目で、「仕事」と「家庭生活または社会活動」の優先度について、希望と現実のギャップを調査する中で、年代別に集計を行うと、結果に差が生じていることもわかった。今後、分析を進めていく。

**【新沼聖委員：意見】**

企業としての立場でお話ししたい。当社においても、男女共同参画の取組を行う中で様々なことが見えてきた。若い社員は、男女共同参画の意識が既があり、アンケートによらずとも「当たり前」という価値観になっている。若い人の感覚に合わせていけば、男女共同参画に係る取組を拒否する選択はなく、そういう取組や雰囲気は広まりつつあると感じている。あとは、企業が社員の声にどう応えていくかということ。企業が女性をどのように雇用するか、また、活躍するにはどのような取組が必要かを検討すること、それを突き詰めていくと、若年世代の望む取組を行うことが、男女共同参画社会に近づくことになるのではないかと感じている。特に、ワーク・ライフ・バランスで働き方を良くすること、労働時間の削減や休暇取得率の向上により働きやすくなり、女性も参画しやすい社会になると思う。

女性の管理職についても、現在、増やす取組を行っている。管理職として能力を発揮させるには、経験を積むための取組が必要となるが、ワーク・ライフ・バランスとの両立が課題となっている。女性に限らず、若い社員は、時間外労働を避け、自分の時間を優先する傾向にある。企業を存続させていくためには、そういった社員の声に応える必要があると思っている。そうすることで、結果的に、女性も男性も働きやすい社会になると思いい、そういった視点で取組を進めているところである。

**【白木澤京子会長：質疑】**

新沼委員の企業では、男性への育児休業取得の勧奨について、どのように行っているのか。

**【新沼聖委員：回答】**

制度を整え、気軽に取得できることを周知しているが、男性社員からは、長期休業の要望は少なく、出産前後で他の子の看護のために1か月休業したいとか、半日出勤を3か月間だけ続けたいなどといった要望が多い。

そのような取得事例を示しながら周知することで、取得する社員が増えてきている状況にある。

**【男女共同参画室：回答】**

年代間において、意識のギャップが存在すると同様に感じている。一定の若い世代は、シニア世代の方々と比べ、男女共同参画というものについてある程度理解しているという状況が、男女共同参画の取組推進のヒントになるのではと考える。

また、事業者からもアンケート回答をいただいております、事業所や従業員規模により、取組状況が異なることから、計画にどのように反映させていくか、検討する必要があると考えている。

## 【男女共同参画室：総括】

委員の皆様には、大変参考となるご意見をいただき、深く感謝する。

本日いただいた意見の中でも、ポイントとなる意見がいくつかあった。

まずは、何から取り組むべきか戸惑いがあるということについて、今まで行ってきた市の取組が、定番すぎたのかと感じている。男女共同参画は、長く続く課題であるため、多方面において同じ力の入れようではなく、今後は、メリハリを付けて施策の重点化などといった対応を行うべきと、強い課題意識を持っている。

また、男女共同参画における問題意識の最たるものは、女性の可能性を社会として生かし切れていないということであり、それは、社会的に大きな損失が生じていることを広く認知させることが必要と考える。その改善について、市でも、日本全体でも、また、世界的にも求められているということを知周知するため、関連する啓発活動を行っていくことが大事である。

ワーク・ライフ・バランスに係る数値の向上が芳しくないことについては、一方で、両立を望む声が非常に大きいということでもあり、客観的にもそれが明らかになったと思っている。

新沼委員から示唆に富んだ意見をいただいたが、アンケート調査でも、男女共同参画が重要課題と認識している事業所が多いことが判明した。

一方、事業者アンケート調査の回答数が低いことが、労働者側のニーズと、事業者側の考え方とにギャップがあることを、また、市内における事業者の関心の高さの状況を端的に浮き彫りにしたと考えている。

女性だけではなく、女性も男性も、という考え方が大切であり、女性が生きやすいということは、男性も生きやすいということ、それを感じることができる施策が求められていると、改めて感じる事ができた。

今回のアンケートについては、非常に良い調査ができたと思っているので、これを有効に活用し、より実践的な計画づくりができるようにと考えている。委員各位においては、引き続きのご支援、ご協力をお願いする。

## 7 その他

特に意見・質疑などはなし